

7月8日(土)

「人と組織を動かすプレゼンテーションの極意」



新名 史典

株式会社Smart Presen 代表取締役

【概要】

プレゼンテーションは単なる説明でも、カッコいいトークテクニックでもありません。優れた技術、優れたソリューションもそのすばらしさを理解していただき、協力してくださる方々に動いてもらうための総合的な取り組みです。そのための必須の要素、ストーリー構成、そして資料と語り方による魅せ方をトータルで考え、実践いただけるようにノウハウをご提供させていただきます。

【略歴】

1997年 大阪府立大学(現大阪公立大学)大学院 農学研究科博士前期課程修了

1997年 サラヤ株式会社入社。技術営業とマーケティング、商品開発業務に従事

2011年 独立起業し、株式会社Smart Presen設立。特に研究者、技術者のプレゼンテーション支援に積極的に携わる。

モットーは「ビジネスは伝わってナンボ！」

圧倒的なプレゼン機会の経験をベースに、「人と組織」を動かすためのプレゼンテーション理論を確立。

年間300件の企業・団体・自治体研修での指導にあたるとともに、MOTスクールでの登壇、大阪大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪公立大学などの研究機関での登壇、文部科学省国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、公益財団法人大阪産業局などの各プロジェクトにてプレゼンテーション・ビジネスプランのブラッシュアップの指導にあたる。

7月8日(土)

「サントリーのデジタルヘルス・フードテック」



鈴木 雄一

サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社
研究推進部 上席研究員

【概要】

サントリーのデジタルヘルス・フードテックへの取り組みについて、CESへの出展や社会実装に向けた活動を中心に紹介します

【略歴】

- ・武蔵野ビール工場・京都ビール工場
(ビール工場での設備導入・改善プロジェクト)
- ・サントリーホールディングス 生産企画部
(技術戦略、技術系の人材戦略、全社改善活動の推進)
- ・サントリーグローバルイノベーションセンター ビジネス開発部
(研究戦略、研究ポートフォリオ、テーマ創出マネジメント)
- ・サントリーホールディングス 経営企画部 (兼務) 研究企画部
事業開発部 (兼務) 研究企画部
(経営戦略、研究所の革新、オープンイノベーション、研究開発プロジェクト推進)

8月5日(土)
「デザイン思考」



祇園 景子

神戸大学V.School 准教授

【概要】

一言で「デザイン」といっても、服飾デザイン、建築デザイン、グラフィックデザインなど、様々な分野で使われている言葉です。本来、造形や図案、模様を考案することを意味しますが、広義では「必ずしも解が一つではない課題に対して、様々な角度から実現可能な解を見つけ出していくこと」と言えます。デザインコンサルタント会社IDEOは、デザイナーが0から1を作り出す際のマインドセットと思考について、デザイナーでない人たちも実践できるように手法を提案しました。それがデザイン思考と呼ばれ、イノベーションを創り出すアプローチとして注目されています。日本でも多くの企業がアイデアを生み出すためにデザイン思考を取り入れています。本講義では、デザイン思考を取り入れながら、思考の発散・収束をワークショップを通じて体験していただきます。多様な人たちと一緒に対話しながらアイデアを導き出す過程を楽しんでください。

【略歴】

2002年 神戸大学大学院自然科学研究科 修了

2008年 福山大学大学院工学研究科 博士(工学) 取得

サントリーホールディングス株式会社 R&D企画部 植物科学研究所 研究員、公益財団法人新産業創造研究機構TLOひょうご 産学連携コーディネーター、神戸大学大学院医学研究科 特命助教、滋賀医科大学バイオメディカル・イノベーションセンター 特任助教、神戸大学大学院工学研究科 特命助教などを歴任し、2021年4月から現職。

8月5日(土)

「英国式イノベーションと日本文化」



佐相 宏尚

株式会社ケンブリッジコンサルタンツ 代表取締役社長

【概要】

英国は世界トップクラスの大学を擁し、ノーベル賞受賞者も世界で2番目に多く輩出しています。人材に恵まれた環境の中、数多くの革新的なグローバルスタートアップが生まれてきていますが、スティーブ・ジョブスのようなカリスマ経営者がほとんどいません。どのようにして、AIやIoTなど最先端分野で世界をリードするイノベーションが創造を続けているのか、日本でも同様の仕組みを作ることができるのかを実例を交えながら考察します。

【略歴】

立命館大学法学部卒業後、日系商社を経て外資系携帯電話メーカー等で事業開発・技術提携・エコシステム構築などを20年以上にわたり担当。

スタートアップに参画した後、世界有数の技術コンサルティングファームであるCambridge Consultants Ltd日本法人を2015年2月に設立、ライフサイエンス分野含む様々な日本企業の変革支援に従事。

9月9日(土)

「製薬産業におけるオープンイノベーション」



有岡 伸悟

塩野義製薬株式会社 投資戦略部

【概要】

近年、製薬会社単独で医薬品を上市する事は難しくなっている。そこで、多くの製薬会社が、アカデミアやベンチャー企業で見出された新規アイデアや医薬品の種を見出し、うまく開花させる取り組みに力を入れている。今回は、上記取組を概観すると共に、弊社の事例をご紹介します。

また、私も皆さんと同じMOT講座受講生でした(MOT4-6)。MOT講座で学んだ事や、得られたネットワークをどの様に実業務に生かすことが出来たのか、受講生に近い視点で共有できればと思います。

【略歴】

2004年:大阪大学大学院工学研究科博士前期課程

2004年:塩野義製薬株式会社入社

2004年~2014年:塩野義製薬株式会社にて創薬研究に従事

2010年:北海道大学生命科学院博士後期課程修了

2015年-2021年:研究企画部や事業開発部にてオープンイノベーション業務に従事。アカデミアやStartup企業で生まれたシーズの発掘や協業体制構築、そして、複数企業が参画するコンソーシアムを活用した研究基盤構築等に従事。

2022年からStart upへの出資やハンズオン支援に従事。

9月9日(土)

「ベンチャースピリット」



安達 宏昭

株式会社創晶 代表取締役社長

【概要】

大阪大学発ベンチャー「株式会社創晶」を32歳で起業してから18年が経ちました。その間、ベンチャー起業を7回、社会福祉法人や一般社団法人の理事を務めるなど、いろいろな経験を積み重ねてきました。事業分野はそれぞれ異なり、多岐に渡りますが、私なりに専門性を持ち、好奇心と情熱を維持して、走破してきました。その原動力は、ベンチャースピリットであると感じています。ベンチャースピリットは、ベンチャー起業や経営に限定されるものではなく、日常生活や仕事の場面など広く活用できると考えます。新しいことに挑戦したり、積極的に行動したりするための一助になれば幸いです。

【略歴】

1998年4月 日本ガイシ株式会社 入社(2001年3月 退職)
2003年3月 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程, 電気工学専攻 修了, 博士(工学)
2003年4月 大阪大学大学院工学研究科 助手
2005年7月 株式会社創晶 代表取締役社長
2011年6月 社会福祉法人あおば福祉会 理事
2013年4月 株式会社創晶應心 代表取締役社長
2014年5月 株式会社創晶大学 代表取締役社長
2016年1月 株式会社dotAqua 代表取締役社長
2016年2月 株式会社A・P・M 創業者、取締役上席執行役員
2016年3月 株式会社創晶超光 代表取締役社長
2016年7月 大阪大学大学院工学研究科 招へい教授
2020年11月 株式会社HOIST 取締役
2020年11月 一般社団法人日本MA-T工業会 専務理事 兼 事務局長
2021年2月 大阪大学大学院薬学研究科 特任教授

10月14日(土)

「リーダーシップの本質と実践」



能見 貴人

Eurus Therapeutics株式会社 代表取締役 CEO

FORESIGHT&LINX株式会社 代表取締役 社長

【概要】

今日、あらゆる局面でリーダーシップの重要性が唱えられているが、一方でリーダーシップの本質とは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき重要な点を解説する。

【略歴】

- ・Eurus Therapeutics株式会社 代表取締役 CEO (2021/2 ~)
Eurus TxIは、新しいゲノム編集技術を開発し、それによって遺伝性の希少疾患の治療薬を開発することを目指す創薬バイオベンチャーです。
- ・FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長 (2017/3 ~)
F&Lは、国内外の製薬企業やバイオベンチャーのオープンイノベーション、事業開発、創薬戦略に対するコンサルティングと実務支援を行う会社で、海外と国内の企業間でのパートナーリングを専門としています。
- ・ Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D (2014~2017)
- ・ i3Discovery 代表: 製薬研究開発&事業開発 コンサルティング (2007~2014)
- ・ GSK筑波研究所 所長(2002~2007)、生物科学研究部 部長 (1999~2007)
- ・ ノバルティス 移植研究領域 マネジャー/Lab Head (1996~1999)
- ・ 岡山大学工学部生物応用工学科 准教授 (1990~1996)
- ・ Roche分子生物学研究所 ポスドク (1989~1990)
- ・ 大阪大学産業科学研究所 助教 (1986~1990)
- ・ 東京大学大学院薬学研究科 博士課程修了、薬学博士 (1986)

10月14日(土)

「SDGsの世界感を体験する SDGsワークショップ」



今田 大介

一般社団法人インバウンド・ダイバーシティ協会 代表理事

【概要】

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で2015年9月に国連加盟国193カ国全会一致で採択されました。

2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。

最近メディア等でも取り上げられている「SDGs」。

17のゴール、169のターゲットなど聞かれたことのある方もいらっしゃると思います。

今回は、座学でSDGsを学ぶのではなくワークショップ形式で、カードゲームでSDGsの世界感をシュミレーション体験し、SDGsをライフサイエンス分野にてどのように取り入れることができるか一緒に考えましょう。

【略歴】

尼崎市SDGs推進アドバイザー ・ 神奈川SDGs社会的インパクトマネジャー

三郷町SDGs推進コーディネーター

SDGsゲームファシリテーター(「2030SDGs」「SDGs de 地方創生」「SDGsアウトサイドイン」)

自治体や企業等のアドバイザーや社会的インパクト評価/マネジメント手法による民間企業のSDGs事業開発支援業務等を行いながら教育現場(小学校から大学院まで)においてSDGsについての授業・講義を実施するなど、SDGsの普及啓発・アクションに取り組んでいる。

※MOT6・MOT7の修了者

11月11日(土)

「医療機器プログラム(SaMD)の開発と事業化: 成功への鍵を探る」



松尾 恵太郎

株式会社asken 医療事業部 副部長

日本デジタルヘルス・アライアンス(JaDHA)

デジタル医療サービスの円滑な利活用に向けた基幹プラットフォーム構築WG リーダー

【概要】

デジタル技術の進化はヘルスケア業界に新たな可能性をもたらしました。その代表的な存在が、ソフトウェアとアルゴリズムに基づいて診断、予防、治療などの医療機能を提供する「医療機器プログラム(Software as a Medical Device, SaMD)」であり、産官学連携による取り組みの推進などにより、近年多くの企業が開発・事業化を目指しています。

本講義では、SaMDの開発と事業化における成功の鍵について、実際に事業化を進めている当事者の視点からお伝えします。参加者の皆様にとって、規制動向、アライアンス、事業戦略、マーケティングなどの観点から、ビジネスチャンスを探るきっかけとなれば幸いです。

【略歴】

2003年外資系製薬企業のMR(医薬情報担当者)としてキャリアをスタートし、2016年からは希少疾病治療薬のブランドマネージャーとしてマーケティング戦略の立案と実行を担当(担当領域: 血友病、家族性アミロイドーシス、ベーチェット病)。

2023年1月株式会社askenに入社、医療機器プログラム(SaMD)の開発・事業化を中心とした医療事業全般に責任を持つ。

またデジタル医療産業の発展に貢献するため、2023年2月より日本デジタルヘルス・アライアンス(JaDHA)のワーキンググループでも活動している。

11月11日(土)

「事業化を目指す研究者のための 特許と契約」



浅野 滋啓

国立循環器病研究センター 産学連携本部長

【概要】

様々な企業や大学等とのコラボレーションを多数推進してきた実体験を踏まえ、研究開発から事業化における知財戦略や契約交渉を中心に、企業の知財戦略が大学等のそれとどこが違うのか、企業はどんな点を重視しているか、企業とアカデミアの産学連携・企業間の共同研究開発を如何に上手く進めるか等、具体的事例を含めてお話しします。研究成果を事業につなげ成功させる上で、特許の観点で先ず考えるべき重要ポイントに絞り、研究開発、事業開発、企画、営業その他、あらゆる部門の方々も(法律の条文や契約書の文言など難しいことは分からなくても)、最低限ここだけは押さえておきたい特許や契約のエッセンスと考え方について、皆様と一緒に考えたいと思います。

【略歴】

1987年 京都大学大学院・農学研究科農芸化学専攻 修士課程修了

1988年 武田薬品工業株式会社 生産技術研究所・バイオ技術センター・研究員

1994年 武田薬品工業株式会社 特許部・特許出願グループ・課長代理、知財情報グループ・主席部員

2002年 Takeda Europe R&D Center (ロンドン駐在、3年)

2005年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・シニアマネージャー

2015年 武田薬品工業株式会社 Strategy & Operations, IP & Alliance Director

2017年 九州大学 ARO次世代医療センター 特任准教授

2019年 藤田医科大学 産学連携推進センター 教授

2020年より 現職

(他に 日本ライセンス協会 (LES Japan) 理事、UNITT (大学技術移転協議会) 理事、九州大学・先端医療オープンイノベーションセンター 外部アドバイザー、株式会社ジェクスヴァル シニアアドバイザー など兼任)

12月9日(土)

「知財戦略のありかた」



山本 秀策

弁護士法人 山本特許法律事務所 弁理士

【概要】

起業家に魅力的かつ実践的な知財戦略の一例を私の9つのエピソードを通して話したい。

「知財の力」

「時代の趨勢」

「オーソドックス」ー発明の能力・代理人の能力

「教育プログラム」ーアイデアの価値化

など。

【略歴】

山本特許法律事務所 創業(1979)

大阪大学共創機構顧問

大阪大学国際医工情報センター招聘教授

大阪商工会議所ライフサイエンス振興委員会副委員長

12月9日(土)

「医療機器開発の現状と課題」



保多 隆裕

神戸大学 大学院医学研究科医療創成工学専攻 特命教授
未来医工学研究開発センター
医学部附属病院 医工探索創成センター

【概要】

わが国の医療機器市場規模はおよそ3兆円で、年々拡大はしているが米国や新興国に比べてその成長率は低く、市場規模はついに中国にも追い抜かれた状況である。加えて国内市場の製品の多くは欧米製で、特に治療系機器の輸入依存度は際立っており、医療機器の貿易収支は1.5兆円規模の大幅赤字が続いている。講義では医療機器の開発のプロセスおよび日本の医療機器産業の現状と課題、さらには医療機器産業のエコシステムについて解説する。

【略歴】

内資・外資の製薬会社で10年余り創薬研究に従事した後に退職。海外の大学院で博士号を取得し、上席研究員として研究活動を行った。帰国後は神戸大学医学部附属病院で医薬品、医療機器などのトランスレーショナルリサーチを主導し、現在は神戸大学大学院医学研究科に本年度新設した国内初の医療機器開発人材育成を目指した医療創成工学専攻(修士、博士)において、医療機器開発を実践しながら人材育成を実施している。